

## <シネミンガとは>

シネミンガは、デジタル映像表現を通して、世界中の様々な人々が繋がった協同体です。地域で映像制作を行い、伝統文化の振興と、地域間における草の根交流の推進を目的としています。

「ミンガ」（ケチュア語がルーツ）は、社会を良くする為の協働作業であり、共有する事であり、互いの学び合いであり、集団の屈強さを意味します。アメリカの「ラコタ」や沖縄の「ゆいまーる」も同様の言葉です。

## <シネミンガの目標>

### 研修・アクセス

- 地域コミュニティでワークショップを行い、ビデオ制作の手法を指導します。
- 地域コミュニティにメディアセンターを設立する為に、ビデオ機材を提供し、必要性に応じた技術支援をします。

### 制作

- 地域文化を振興する為に、映画やドキュメンタリー等の作品や、ビデオ教材の制作を行います。

### 発信

- 作品は、地域内だけでなく、シネミンガがネットワークしている様々な地域で上映します。
- シネミンガの活動理念に基づいた編集・出版・配給をします。
- 市民メディア関連を中心に、様々な作品をウェブサイト掲載、多言語でインタラクティブなコンテンツを提供します。

### ミンガ：交流のプラットフォーム

- 上映会・セミナー・共同製作といった手法で、国内外の地域コミュニティをつなぐ活動を行います。
- 教育センターや各種文化施設にシネミンガのメンバーが訪問し、交流活動を行います。

## <シネミンガのサービス>

### ワークショップ

- シネミンガとのネットワークに興味のある人には、下記の分野でメディア制作のワークショップを行います。
  - －独自の表現方法を探り出す
  - －ストーリーの構成
  - －撮影・録音技術
  - －ビデオ編集の理論と技術
  - －コミュニティの目的を達成する為に、どうメディアを使うか

### 機材へのアクセス

- 市民メディアに必要な機材を入手するお手伝いをします。

### 翻訳・ビデオへのテロップ入れ

● 消滅の危機にある言語を復興させるため、また、メディアを活用した言語の普及を促進する為に、英語・ラコタ語・スペイン語・ナサ語・日本語・アイヌ語など、様々な言語の翻訳をします。

### 映像の保存と普及

● 文化の発展に貢献するため、また、ナレッジマネジメント(知的情報の共有化)の手段として、多種多様な映像を収集・保存し、提供していきます。

### レクチャー

● 文化保存の為にビデオが果たす役割、土地問題、人権問題、異文化交流をテーマにビデオ上映とレクチャーを行います。

## <シネミンガのメンバー>

### **Carlos Gómez カルロス・ゴメス** (共同設立者・代表)

フィルムメーカー・インストラクター・翻訳家。1996年から2000年まで、シカゴで映像を学びながら、地域の若者を対象にしたビデオ・写真の講師として働いた経験がある。

カメラマン・編集マンとして、様々なインディペンデントのドキュメンタリーや映画制作に参加。作品は、アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭、ベルリン映画祭、サンタフェ映画祭で上映された他、サンダンスチャンネル(アメリカ)、NHK(日本)、ARTE(フランス)、ZDF(ドイツ)、SBC(オーストラリア)、アルジャジーラ(カタール)などで放映された。

英語-スペイン語の通訳者として、ニューヨークで、国連の「パーマネントフォーラム・先住民族問題会議」、「スミソニアン・アメリカ・インディアン博物館」、「ファーストネーション・ファーストフィーチャー映画祭」に携わる。

地域の人々と一緒にビデオ制作を行い、人々の想いを世界に発信する一助になりたいと、アマリア・コルドバ、溝口尚美と共に、シネミンガを設立した。

### **Naomi Mizoguchi 溝口 尚美** (共同設立者)

日本で官公庁・企業・テレビ・市民グループの為に100本以上のビデオやフィルム作品を監督。音響・音楽専門学校を卒業後、ビデオ制作プロダクションに入社。1996年からドキュメンタリーを中心にフリーランスのディレクター・編集マンとして働く。アメリカのラコタ民族やインドのダリットに関するものなど、人権をテーマに制作した作品は日本で視聴覚教材として使われている。

2004年、ニューヨークに移住。DCTV(ダウタウン・コミュニティ・テレビジョンセンター)のスタッフに加わる。2008年からシネミンガの一員として、南米コロンビアで、メディアセンターの設立・ビデオワークショップ・短編映画制作に参加する。また、日本とニューヨークで十代の若者を対象にしたビデオ制作のインストラクターとしても働いた経験がある。



## **Amalia Córdova アマリア・コルドバ (共同設立者・アドバイザー)**

これまでに2本の先住民族アートに関するドキュメンタリーを共同監督。また、カナダ・チリ・メキシコ・アメリカで映画の上映イベントをコーディネートしてきた。美術館での仕事経験は10年以上になる。2002年よりニューヨークの Smithsonian・アメリカ・インディアン博物館でラテンアメリカ・映画ビデオプログラムのコーディネータを務め、英語とスペイン語による国内外のビデオ上映会や映画祭を取り仕切る。

数々の先住民族映画祭でパネリスト・選出委員・審査員を務める他、ラテンアメリカの先住民族メディアに関するリサーチや出版にも携わる。チリで美学・現代美術を学び、ニューヨーク大学でパフォーマンススタディのMA(マスター)を取得。現在はシネマスタディーの博士課程に在籍中。チリのサンチアゴ出身。

「シネミンガは、私が長年待ちわびていた夢が具現したものです。世界中のコミュニティとのコラボレーションが実現します。ニューヨークこそ国境を超えた文化交流を育むのに、ぴったりの場所だと思います」

## **Scotti Williston スコッティ・ウィリストン (シネミンガインターナショナル理事)**

ニューヨーク市立大学(CUNY)大学院・ジャーナリズム学科教授。社会問題をテーマとするCUNYTVのチーフプロデューサーも務める。ニューヨークのWPIX-TVのレポーターとしてカメラの前に立ち、またプロデューサーとしても世界各国で働いてきた。

エジプトのサダト大統領が暗殺された時、CBSカイロ支局から最初にレポートした事で、国際的なキャリアをスタートさせる。ローマ支局長を経て、日曜朝の番組のプロデューサーに抜擢されアメリカに帰国。1980年代半ばにCBSを退職し、フリーランスのプロデューサーとしてNBCニュースのコンサルタント、ニューヨークの公共放送PBS、スロベニアのPOPTV、中国の上海メディアグループドラゴンTVで働く。

ニューヨーク大学やニュースクール大学でジャーナリズムを指導、他にコロンビア大学大学院のジャーナリズム学科でも助教授として教鞭を執る。ジャーナリズム・人種・民族をテーマにしたワークショップ・Let's Do it Better! ではディレクターを務めた。

2006年、中東の「ナイト国際ジャーナリズム」の特別研究員として、パレスチナ、ヨルダン、エジプト、シリアで勤務。また、ハイチとパキスタンでジャーナリストを対象にしたワークショップも開催した。

最新のプロジェクトでは、パキスタンで24時間全国放送の英語ニュース専門番組の立ち上げに従事した。

## **Tiokasin Ghosthorse ティオカシン・ゴーストホース**

(シネミンガインターナショナル理事)

1992年より、ニューヨークを拠点に、先住民族のラジオ番組「ファーストボイス・インディジネスラジオ」のホスト・ジャーナリストとして従事する。番組はニューヨーク周辺の5つの州で2800万人に発信されている他、インターネットやケーブルテレビ、衛星放送など、米国内に138のコミュニティ放送網を持つパシフィカラジオを通じても放送されている。

この他、優秀なフルーティストとして世界各国で演奏活動も行う。聖ヨハネ大聖堂・メトロポリタン美術館・国連本部・数々の大学・各種イベントでも演奏を披露。最近は、フォーク歌手であるピート・シーガーの90才のバースデーイベントをマディソンスクエアガーデンで開催した。

十代の時、スイスの国連で行われた社会権規約 (ICESCR) 国際会議の場で発言。コーネル大学薬学科の学者に師事。また、ハーバード大学の放送と文化に関するセミナーではパネリストとして参加し、北米と南米で活動する先住民族のラジオ放送局をつなぐ活動をした。サウスダコタ州シャイアンリバー居留区の登録市民でもある。

## **Barry Strugatz バリー・ストルガッツ** (シネミンガインターナショナル理事)

ニューヨーク在住の映画脚本家・監督。ジョナサン・デミ、メリル・ストリープ、ミシェル・ファイファー、アラン・パクラ、メリッサ・レオ、イザック・デ・バンコレらとも仕事をしてきた。主な作品は、アカデミー賞にもノミネートされ、数々の映画祭で受賞歴のある“MARRIED TO THE MOB”の他、“SHE-DEVIL,” “FROM OTHER WORLDS.”

現在、ブルックリンカレッジで脚本を教える傍ら、いくつかの長編映画を企画中。この他、太極拳をテーマにしたドキュメンタリーを編集中。

## **Joseph Waller ジョセフ・ウォラー** (デザイナー)

ジョセフはフリーランスのアーティスト・デザイナーとして、ロゴやウェブサイトから、DVDや本のパッケージデザインまで、幅広い仕事を手がける。手書きやコンピュータを駆使した作品の多くは、出版や印刷物・写真・イラストなど、時代に即した社会・政治・文化に関連したものである。キャンバーウェル・カレッジオブアーツを卒業し、グラフィックデザイン学士(オーナー)を持っている。

## **Inocencio Ramos イノセンシオ・ラモス** (ファンダシオン・シネミンガ)

南米コロンビアのカウカ県ティエラデントロ出身。ナサ語とスペイン語のバイリンガル。25年以上に亘り、CRIC (カウカ県先住民族地域会議)で、教育プログラムに携わる。

ナサ語で演奏する「クウェシュ・キウェ=我が大地」という音楽グループ(1980年代初頭に設立)のリーダーとして国内外で活動し、先住民族運動に携わる。過去15年、CRICのバイリンガル教育プログラムでビデオ教材の制作にも従事してきた。

南米で最も早く開催されたビデオワークショップに参加。メキシコのオアハカや、ボリビアのヨタラで研修を受けた。また、アメリカ・ワシントンDCでソーシャルマネージメントを学んだ経験もある。



### **Roseli Finscué** ロセリ・フィンスケ (ファンダシオン・シネミンガ)

南米コロンビアのカウカ県ティエラデントロ出身。両親は、ナサ民族とグアンビアノ民族。現在、ポパヤンのカウカ大学で政治学を学びながら、故郷のガイタナ居留区で経理と秘書も勤め、ティエラデントロの農業労働者団体の為に力を注いできた。

シネミンガでは、カウカにおける先住民族の世界観の復活、地域に根ざした社会教育をする為に活動している。パソコンを使ったビデオ編集を勉強中で、脚本づくりやナレーターとしても制作に参加している。

### **Miriam Liz Andela** ミリアム・リズ・アンデラ (ファンダシオン・シネミンガ)

弁護士。南米コロンビア・カウカ県ティエラデントロ出身。2009年まで、コロンビア全土の先住民居留区で健康支援に取り組む「AIC (カウカ県先住民族協会)」で、法律アドバイザーとして勤務。

2002年に始まった若者の権利確立運動に携わり、ティエラデントロのコヘタンド居留区で教師として働いてきた経験がある。現在、OAS(米州人権委員会)のフェローシップでワシントンに在住。

シネミンガに加わった理由は、新たな知的財産権のあり方を展開させる為。先住民族に関する様々な国の法律を、当事者との対話によって学び、コロンビアの法律に活かしたいと願っている。

### **Geodiel Chindicué** ヘオディエル・チンディケ (ファンダシオン・シネミンガ)

南米コロンビアで、シネミンガが活動を始めた頃からのメンバー。故郷・ウイラ居留区では、シネミンガ・クエンジー(シネミンガ・ナサ)の責任者として、地元貢献してきた。

以前から所有していたビデオカメラを自己流で使っていたが、シネミンガで編集や撮影の技術を学んで以来、めきめきと技術を上達させている。ウイラ山が火山活動を始めて以来、火山に関する事象を、事ある毎に撮影し続けている。また、映画「夢」の制作では、脚本づくりや制作スタッフの中心となって活躍している。

コロンビアとニカラグアで実施されている国連とWTOのプログラムでリスクマネージメントを勉強中。居留区では、重役組織のメンバーでもある。

### **Gisella Finscué** ジセラ・フィンスケ (ファンダシオン・シネミンガ)

2007年より、シネミンガ・クエンジー(シネミンガ・ナサ)の一員として参加、故郷・ウイラ居留区で、地元の為に貢献してきた。ビデオ制作現場では、脚本や編集の他、俳優やイラストレーターとしても携わる。

2010年、ウイラ居留区の重役組織のメンバーに選ばれる。また、地元の先住民族大学で、コミュニティディベロップメントを勉強する学生でもある。

**Jerónimo Pete Tumbo** ヘロニモ・ペテ・トゥンボ (ファンダシオン・シネミンガ)

2007年より、シネミンガ・クエンジー(シネミンガ・ナサ)の一員として参加、故郷・ウイラ居留区で、地元の為に貢献してきた。地元の先住民族ガード(護衛)グループのリーダーでもある。

シネミンガでは、録音に興味を持ち活動に参加したが、現在は撮影技術を磨いている。地元の居留区では、イベントの撮影係として活躍している。

**Rosaura Villanueva** ロサウラ・ビジャヌエバ (ファンダシオン・シネミンガ)

南米コロンビアの首都・ボゴタ出身。ポリテクニコ・グランコロンビアノ大学(ボゴタ)で広告学を学んだ後、2006年より映像の仕事に携わり始め、制作・脚本・編集・ファンドレーシングの分野で働く。

ロサウラの目標は、映像制作の機会に恵まれない人々の為の環境づくり。これによって、文化遺産の理解・普及・保存に役立てたいと考えている。

シネミンガとしては、2009年にONIC(コロンビア先住民全国組織)が主催した第1回先住民族映像祭「ダウパラ」にスタッフとして参加。また、ビデオ制作だけでなく、企画書づくりや運營業務にも従事している。

**Toshifumi Matsushita** 松下 俊文 (シネミンガインターナショナルアドバイザー)

兵庫県加古川市出身。大学卒業後、松竹の京都映画撮影所でアシスタントプロデューサーとして働く。1979年、ニューヨーク大学で映画を学ぶ為に渡米。1981年、ニューヨークを拠点とするテレビ制作会社のエンテル・コミュニケーションズでプロデューサーとして働いた後、1987年にドルフィンプロダクションを設立し、数々のインディペンデント映画や日本向けのテレビ番組、ドキュメンタリーの制作に携わる。代表作は「ビッグ・チーフ」20分、1992年。「キューバ・アモール」40分、1995年。「ブードゥ・キングダム」45分/15分、1998年。2008年に完成した「パチャママの贈りもの」(104分)は、初の長編作品(撮影地:ポリビア)。モントリオール国際映画祭、バンクーバー国際映画祭、クリーブランド国際映画祭、サンパウロ国際映画祭などの映画祭で上映されている。

**Jesús Avirama** ハスース・アビラマ (シネミンガインターナショナルアドバイザー)

南米コロンビア・カウカ州のココヌコ出身で、CRIC(カウカ州先住民族地域会議)の元代表。先住民族の代表として25年以上にわたり、国内外の国際会議やフォーラムなどに参加してきた。コロンビア政府と交渉する「先住民族協議委員会」の一員となり、1991年には南米でも先駆的な先住民族の人権に関する憲法制定を提案、国内の政策にインパクトを与えた。

現在、ニューヨーク在住。コロンビア先住民族の人権を訴えるため、コロンビアから訪問する代表者と共に、定期的に米国各地へ足を運ぶ。2004年、マリオ・A・ムリロ教授と共著で、「戦争・不穏・不安定」をコロンビア及びアメリカで出版する。2008年には、国立アメリカ・インディアン博物館主催の「ネイティブアメリカン・フィルムビデオ映画祭」の作品選出にアドバイザーとして携わる。



**Marta Rodriguez マルタ・ロドリゲス** (シネミンガインターナショナルアドバイザー)

1960年よりフリーランスの映像作家として、農民・学生・先住民族・アフリカ系コロンビア人コミュニティ・労働組合など、様々な政治・社会運動をテーマに制作活動を行う。最近、8年がかりで、アフリカ系コロンビア人コミュニティをテーマにしたドキュメンタリー3部作を完成させた。更に、コロンビア国内の、先住民族コミュニティでおきた集団殺人についてのドキュメンタリーが完成間近である。また、数々の先住民族コミュニティを対象に、ドキュメンタリーのワークショップも行っている。

コロンビアの国立大学で社会学の学位を取り、パリでジャン・ルーシュに文化人類学・映像制作を師事。これまで、作品は世界中で数々の賞を取っている。近年では、フランス、スペイン、ドイツ、南米で、レトロスペクティブ上映された。

**ミンガサポーター** (2010年1月現在)

*Mitsuyo SATO, Junichi HIBINO, Masao TSUDA, Shidaka YAMAMOTO, Noboru MATSUMOTO, Takuji YOSHIMOTO, Kenjiro TAKAGI, Yasuo MIZOGUCHI, Aiko CHIKABA, Young JAE HONG, Jim LEFF, Kenichi SHIMOMURA, Peach SATO, Shizuyo YOSHITOMI, Fusayo SEKI, Lorenzo GOMEZ, Junko NOMURA, Daisuke SHIBATA, Takashi MOYA, Clara Eugenia RONDEROS, James HAMM*

**<シネミンガのコンタクト>**

●アメリカ (シネミンガ・インターナショナル)

87 Lafayette St., New York, NY 10013, USA

●コロンビア (ファンダシオン・シネミンガ)

Calle 2 Norte #3-30 Apt.101, Popayán, Cauca, Colombia

●日本 (シネミンガ)

〒673-1323 兵庫県加東市岡本98

以上

2010年1月現在